

7期ぶりに業況判断が改善された日銀短観

業況判断DI

ポイント① 大企業・製造業の景況感が改善

7月3日に発表された6月調査の日銀短観（全国企業短期経済観測調査）によれば、大企業・製造業の業況判断DI（デフュージョン・インデックス、景況感が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値）は、前回3月調査を4ポイント上回り、7期ぶりに改善となりました。また、大企業・非製造業においても、3月調査を3ポイント上回り、5期連続の改善となりました。

ポイント② 販売・仕入価格判断DIは低下

大企業・製造業DIは、製品への価格転嫁が進む石油・石炭製品、食料品、紙・パルプや、半導体などの供給不足が徐々に解消され、生産の回復がみられる自動車などの業種が改善しました。なお、販売・仕入の価格判断DIがともに低下する中で、その差が縮小していることから、価格転嫁が進んだものの、インフレの減速も見られる内容でした。また、大企業・非製造業においても、両DIとも低下となりました。

ポイント③ 設備投資計画は上方修正

2023年度（計画）の全規模・全産業の設備投資額（含む土地投資額）は、前年度比11.8%増となり、前回3月調査より上方修正されました。雇用判断DIが全分野で大幅なマイナスとなっており、人手不足対策としてのIT投資などを中心に企業の設備投資意欲は強いと思われます。日銀短観公表後の株式市場は、企業の景況感が市場予想を上回ったことで大幅上昇、日経平均株価は33年ぶり戻り高値を更新しました。

（「良い」-「悪い」、%ポイント）

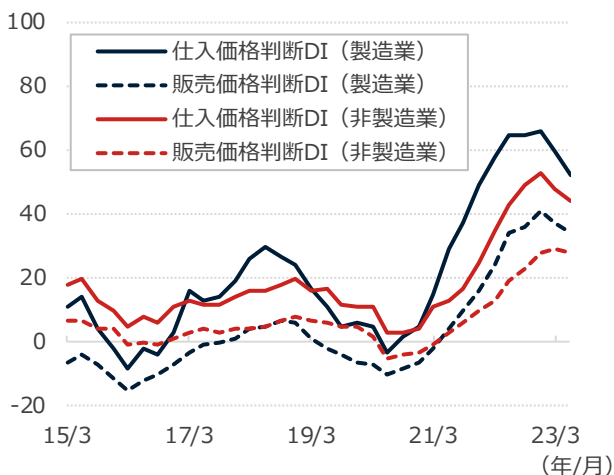
	2023年 3月調査	2023年6月調査				
		最近		先行き		
		2023年6月	変化幅	2023年7月	変化幅	
大企業	製造業	1	5	4	9	4
	非製造業	20	23	3	20	-3
	全産業	10	13	3	14	1
中堅企業	製造業	-5	0	5	2	2
	非製造業	14	17	3	12	-5
	全産業	7	11	4	8	-3
中小企業	製造業	-6	-5	1	-1	4
	非製造業	8	11	3	7	-4
	全産業	3	5	2	4	-1
全規模	製造業	-4	-1	3	2	3
	非製造業	12	14	2	10	-4
	全産業	5	8	3	7	-1

（注） 金融機関を除く。「最近」の変化幅は2023年3月調査との比較。「先行き」の変化幅は「最近」との比較。

（出所）日銀「短観」（2023年6月調査）より野村アセットマネジメント作成
(<https://www.boj.or.jp/statistics/tk/yoshi/tk2306.htm/>)

販売・仕入価格判断DI（大企業）の推移

（「上昇」-「下落」、%ポイント）



期間：2015年3月調査～2023年6月調査、四半期
（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要イベント
7月21日 日本全国消費者物価指数（6月）
7月28日 日銀金融政策発表